



楽器博物館所蔵楽器CDプロジェクト The Best in Heritage 国際会議 2013 で発表



世界遺産の旧市街を見下ろす



閉会式



フェアウェルパーティにて



参加証明書・感謝状



楽器博物館の発表



旧市街は中世の町



会場の劇場

クロアチア共和国のザグレブに本部を置くヨーロッパ遺産協会（2003年創立、会長トミスラフ・ソラ ザグレブ大学教）が主催し、クロアチア政府文化省、ドブロブニク市、ユネスコ、イコム（国際博物館会議）、ノストラ（文化遺産全ヨーロッパ連盟）などが支援、後援、協力する国際会議 The Best in Heritage に楽器博物館が招待され、嶋館長が参加、楽器博物館のCDプロジェクトについて発表しました。

この会議は、毎年、各国でなんらかの賞を受けた博物館、美術館や文化・自然遺産保存修復プロジェクトが招待されて、その活動を発表し、交流と今後の更なる社会貢献について話し合うもので、今回が12回目です。ノルウェー、アイルランド、イングランド、スコットランド、スペイン、ポルトガル、ドイツ、ベルギー、デンマーク、オランダ、ギリシア、ロシア、エストニア、インドネシア、カナダ、アメリカ、オーストラリア、エジプト、中国、日本から24の博物館とプロジェクトが参加。日本からは初参加です。

楽器博物館所蔵の1802年製フォルテピアノを小倉貴久子さんが演奏したCD「イギリス・ソナタ～ブロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～」が、昨年2012年度の文化庁芸術祭レコード部門で最高賞の大賞を受賞したため、招待されました。会議は9月19日から21日までの3日間で、会場はクロアチアの世界遺産の街

ドブロブニク旧市街にある旧市庁舎内の劇場です。

19日夜の開会式と歓迎パーティのあと、翌20日朝から発表が始まりました。インドネシアのフローレス島伝統家屋の建築技術復興プロジェクトや、中庭をガラスの天井で覆ったオランダの科学博物館の取り組み、ドイツの博物館の世界の民族文化の教育プログラムなど素晴らしい取り組みが次々と発表され、「文化遺産は人間の権利である」「博物館を生きたものにする」という考えが欧米では主流であることが強調されました。

楽器博物館の発表は21日午後12時過ぎから20分間、その後質疑応答とディスカッション。「200年前の古いピアノを、リスペクトして正しい方法で演奏し、コンサートやCDとして社会に発信する。目に見える楽器という文化遺産から、目に見えない音楽という文化遺産を生み出して記録し後世に残す。これは現代の我々の義務のひとつです。昔響いた音というものも重要な文化遺産です。それを一部の人のみではなくて普通の人々に知ってもらおう。博物館が生きた博物館になるためには、このような活動は社会的使命だと思います。」という発表に、参加者からは大きなエールが送られました。楽器博物館と浜松が世界に紹介された有意義な会議でした。

次世代の学芸員を育てる～学芸員実習



当館では、学校教育に関わるさまざまな実習や研修を受け入れています。本年も夏から秋にかけて中・高校生の職場体験学習、教職員の研修、大学生の学芸員実習などを行いました。今回はその中から 8 月に行った学芸員実習を紹介します。

学芸員実習は、学芸員養成課程を受講している大学生が全国の博物館で実務体験を行うもので、学芸員資格取得の必修科目となっています。当館では、実習生を毎年受入れています。定員を大幅に上回る応募があります。本年度も定員を超える応募がありましたので、書類選考をして全国から 9 名を受入れました。

実習内容は、理論だけではなく現場に即した内容であるため、受入れる博物館によってカリキュラムの詳細は異なります。なぜならば、博物館と言っても、人文科学系（歴史・民俗・考古などの博物館、美術館）や自然科学系（科学館、動・植物園・水族館）といった展示内容、設置理念、機能などが異なるためです。当館においても、資料の取り扱いやメンテナンス、記録用の写真撮影、展示企画構成などの基礎的な学芸員業務に加えて、当館の特徴的な活動の企画運営実習も行っています。本年度は、インドネシアの竹の楽器「アンクルン」を用いたミュージアム

サロン（展示室ミニコンサート）を実習生が企画運営しました。

この実習では、実習生が講師となり、展示室を見学されているお客様を対象にアンクルンの演奏体験と楽器を取り巻く文化（風土・構造・演奏されている環境）などを紹介しました。ちょうど夏休み期間中ということで、多くの親子連れが実習生による解説と演奏指導を楽しまれました。実習生の日誌には、「さまざまな業務を少人数で運営していることに驚いた」「資料から情報を引き出して発信する博物館の基礎的な機能の大切さと難しさを学んだ」などと記載されていました。

学芸員資格を取得する学生は年間 1 万人以上いるようですが、学芸員として採用されるのはそのうち 0.5% ぐらいと言われています。狭き門ですが、過去 10 年程の当館実習生のうち 5 名ほどは博物館で活躍しています。実習を通して机上の博物館ではなく博物館の現場を体験してもらうことで、次世代の学芸員が育っていきます。

平成 25 年度学芸員実習

期 間：平成 25 年 8 月 22 日（木）～ 30 日（金）

期間中 8 日間 10:00～19:00

受入れ人数：9 人

レクチャーコンサート 「ルネサンス・バロック・モダン
リコーダーはいろんな顔を持っている！～トリオで聴く、リコーダーの魅力～」



ルネサンスタイプのリコーダー



バロックタイプのリコーダー

日 時：平成 25 年 9 月 20 日（金） 19:00 ～ 21:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：ヴァルター・ファン・ハウヴェ 田中せい子
ダニエレ・ブラジエッティ
入場者：59 人

20 世紀のリコーダー界を牽引してきた大御所ヴァルター・ファン・ハウヴェさん、そして、田中せい子さん、ダニエレ・ブラジエッティさんをお迎えしてリコーダーの魅力をご存分に聴かせて頂きました。

現在の一般的なバロック時代のタイプのリコーダーは、楽器が三分割になっており組み立てて演奏しますが、ルネサンスの時代は分割式ではなく、一本の管でした。演奏会では、まず始めにルネサンスタイプのリコーダーでルッフォ作曲の「音楽のカプリッチョ」を、次にバロックタイプのリコーダーでボワモルティエ作曲の「無伴奏トリオソナタ」など、多数の曲が披露されました。また、バロックフルートの曲を原曲のまま吹くことができる、ボイスフルートというリコーダーを使って、マッテゾン作曲の「3 本のアルトリコーダーのためのソナタ作品 1 より“ソナタ 3 番”」も演奏されました。ソロやトリオでの演奏の中で特に、ハウヴェさんがストラヴィンスキーの「クラリネットのための 3 つの小品」をソロで演奏した後は、客席から感嘆の声があがりました。現代のリコーダーの可能性を最大限に表現された圧巻のステージがとても印象的でした。ルネサンス・バロック・モダンと、その時代に適したリコーダーの演奏は、聴くものに時の旅をさせる力があると感じました。

講座 「民族誌ドキュメンタリー映画とフルースー（ひょうたん笛）のコンサート
死者の旅の歌～中国少数民族タイ族の声と笛とくらし～」

国立民族博物館外来研究員の伊藤悟さんをお迎えして、講座「民族誌ドキュメンタリー映画とフルースー（ひょうたん笛）のコンサート 死者の旅の歌～中国少数民族タイ族の声と笛とくらし～」を開催しました。

中国雲南省徳宏州にはタイ族の人びとが暮らしています。伊藤さんは、そこで彼らの生活や音の文化を研究しています。前半は、伊藤さんが制作したドキュメンタリー映画 2 作品を上映しました。仏教経典を創作する洗練された言葉の技法に関する一連の活動を収録した「こころを架けることば～リック・ヤートの創作と朗読」と、シャーマンが死者の旅を中継する歌を収録した「死者の旅を聴く」という作品です。国際映像人類学映画祭など海外での

映画祭で受賞されている素晴らしい作品でした。

後半は、伊藤さんによる「ひょうたん笛（フルースー）」の演奏です。ひょうたんはユニークな形をしていますが、そこからは想像できないくらい華麗で美しい音がします。このひょうたん笛は、かつては男性が女性に愛を伝える時に使われていたそうです。音で気持ちを伝えるという風習はなかなかロマンチックですね。循環呼吸をしながら途切れることなく吹かれるひょうたん笛の調べは、心地よく、やさしい音に心が惹かれました。

日 時：平成 25 年 9 月 6 日（金） 19:00 ～ 20:30
会 場：楽器博物館 天空ホール
講 師：伊藤悟（国立民族学博物館外来研究員） 受講者：31



講座 楽器の中の聖と俗 第57回 「ハンガリアン・ダンス① 華麗、乙女たちの舞い」



日 時：平成 25 年 10 月 1 日（火） 18:30 ～ 20:00
会 場：楽器博物館展示室
講 師：西岡信雄 受講者：18 人

今年も当館名誉館長、大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄先生をお招きし、3回シリーズの講座「楽器の中の聖と俗」がスタートしました。今年はハンガリアン・ダンスがテーマ。華やかな衣装を身にまとった女性と男性のペアの踊りを西岡先生の解説を交えて紹介されました。農民のハンガリアン・ダンスは踊りも衣装も、親から子へと引き継がれていく村の伝統です。また女性に限っては、衣装を見れば既婚者か未婚者かわかるようになっているそうです。今の日本では考えられませんね。世界的に有名な作曲家のブラームスは「ハンガリー舞曲」を作曲していますが、実はこれはハンガリーに暮らすジプシーの音楽をハンガリーの伝統音楽だと誤解して作曲したものでした。ハンガリーの音楽は、曲の速さの変化を特徴としないそうです。貴重な映像とお話で充実した講座となりました。

博物館日誌

- 9/6（金）講座「民族誌ドキュメンタリー映画とフルーサー（ひょうたん笛）のコンサート 死者の旅の歌
～中国少数民族タイ族の声と笛とくらし～」
19:00 展示室 講師：伊藤悟 受講者：31人
- 9/20（金）レクチャーコンサート
「ルネサンス・バロック・モダン リコーダーはいろんな顔をもっている！～トリオで聴く、リコーダーの魅力～」
19:00 天空ホール
出演：ヴァルター・ファン・ハウヴェ、田中せい子、ダニエレ・ブラジエッティ 入場者：59人
- 9/22（日）ミュージアムサロン「アンクルンを弾こう！」 14:00
天空ホール 出演：小池真梨（当館職員）
参加者：50人
- 9/24（火）～25（水）移動楽器博物館 浜松市立追分小学校
- 10/1（火）講座「楽器の中の聖と俗」（全3回）
「ハンガリアン・ダンス① 華麗、乙女たちの舞い」
18:30 展示室 講師：西岡信雄 受講者：18人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- レクチャーコンサート
「インドネシアバリ島の世界無形遺産 影絵人形芝居
ワヤン・クリ『ラマヤナ物語』より武将クンバカルナの戦死」
10/14（月）14:00 音楽工房ホール
出演：梅田英春、ギター・クンチャナ
「共鳴する弦～19世紀ギターとスクエアピアノの対話」
10/26（土）18:30 天空ホール
出演：ダリオ・マカレーソ、岩村おる

- 平成24年度レコード部門文化庁芸術祭「大賞」受賞記念コンサート
「イギリス・ソナタ～ブロードウッド・ピアノ 新世紀の響き～」
11/12（火）19:00 音楽工房ホール 出演：小倉貴久子
「19世紀サクソフォンのエレガンス～アドルフ・サククス
オリジナルサクソフォンの魅力～」
11/16（土）18:30 天空ホール
出演：赤松二郎、猿渡裕介、中谷龍也、飯守伸二、寄藤佳織
「フィンランドの古代楽器“ヨーヒッコ” 北欧のクリスマス支度」
11/25（月）19:00 天空ホール
出演：ヨウヒオルケステリ（フィンランドより初来日）
- イブニングサロン
「国際古楽コンクール<山梨>2013入賞者コンサート」
10/11（金）19:00 天空ホール
出演：岡村知由紀、吉崎恭佳、野獸吼子
「郷愁のウィーン、チターにのせて」
10/27（日）18:30 天空ホール
出演：ヴィルフリート・シャルフ
「17-18世紀のギター音楽
バロックギターとイングリッシュギター」
11/30（土）18:30 天空ホール 出演：竹内太郎、井上景
 - 講座「楽器の中の聖と俗」（全3回）
10/15（火）「ハンガリアン・ダンス②
歌って踊って、三世代競演」
10/29（火）「ハンガリアン・ダンス③
田園が似合う楽器たち」
講師：西岡信雄 18:30～20:00 展示室
 - ミュージアムサロン 天空ホール
11/1（金）「ブルキナファソのバラフォン」 15:00
出演：ムッサ・ヘマ
11/23（土）「フルートアンサンブル」 14:00、15:30
出演：浜松フルートクラブ

浜松市楽器博物館だより

平成 25 年 10 月 10 日発行 No. 82 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL http://www.gakkihaku.jp/